

〔1〕 総務省令で定める場合を除き、免許人が変更検査を受ける場合は、次のどれか。

1. 臨時に電波の発射の停止を命ぜられたとき。
2. 許可を受けて無線設備の変更の工事をしたとき。
3. 電波の型式又は周波数の指定の変更を受けたとき。
4. 期間を定めて周波数又は空中線電力を制限されたとき。

〔2〕 次の文は、電波法施行規則に規定する「レーダー」の定義であるが、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「レーダーとは、決定しようとする位置から反射され、又は再発射される無線信号ととの比較を基礎とする無線測位の設備をいう。」

1. 同期信号
2. 標識信号
3. 基準信号
4. 応答信号

〔3〕 第一級海上特殊無線技士の資格を有する者が、船舶地球局の無線設備の外部の転換装置で電波の質に影響を及ぼさないものの技術操作を行うことができるのは、次のどの船舶に無線設備を施設する場合か。

1. 総トン数 100 トン未満の旅客船
2. 沿海区域を航行区域とする国際航海に従事しない総トン数 300 トン未満の旅客船
3. 総トン数 300 トン未満の漁船
4. 総トン数 500 トン未満の船舶（旅客船及び漁船を除く。）

〔4〕 無線従事者の免許を取り消されることがある場合は、次のどれか。

1. 電波法に違反したとき。
2. 日本の国籍を有しない者となったとき。
3. 引き続き6か月以上無線設備の操作を行わなかったとき。
4. 免許証を失ったとき。

〔5〕 船舶局が遭難通信を行ったとき、電波法の規定により免許人がとらなければならない措置は、次のどれか。

1. 遅滞なく国土交通大臣に報告する。
2. 速やかに所属海岸局長に通知する。
3. 総務省令で定める手続により総務大臣に報告する。
4. 総務大臣に届け出るとともに無線検査簿に記載する。

〔6〕 船舶局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、次のどの箇所に掲げておかなければならないか。

1. 船内の適当な箇所
2. 船長室の見やすい箇所
3. 送信装置のある場所の適当な箇所
4. 通信室内の見やすい箇所

法

〔7〕 無線局を運用する場合において、空中線電力は、遭難通信を行う場合を除き、次のどれによらなければならないか。

1. 無線局免許申請書に記載したもの
2. 通信の相手方となる無線局が要求するもの
3. 免許状に記載されたものの範囲内で必要最大のもの
4. 免許状に記載されたものの範囲内で通信を行うため必要最小のもの

〔8〕 なるべく擬似空中線回路を使用しなければならない場合に該当しないものを下の番号から選べ。

1. 実験無線局を運用するとき。
2. 実用化試験局を運用するとき。
3. 無線設備の機器の試験を行うために運用するとき。
4. 無線設備の機器の調整を行うために運用するとき。

〔9〕 無線電話通信において、呼出しに使用した電波と同一の電波により通報を送信する場合、順次送信する事項のうち省略することができるのは、次のどれか。

- | | |
|----------------|----|
| 1. 相手局の呼出名称 | 1回 |
| 2. (1)相手局の呼出名称 | 1回 |
| (2)こちらは | 1回 |
| 3. (1)相手局の呼出名称 | 1回 |
| (2)こちらは | 1回 |
| (3)自局の呼出名称 | 1回 |
| 4. (1)こちらは | 1回 |
| (2)自局の呼出名称 | 1回 |

規

〔10〕 2,182kHzの周波数の電波が使用できるのは、次のどの場合か。

1. 遭難通信を行う場合
2. 電波の規正に関する通信を行う場合
3. 出入港に関する通報の送信を行う場合
4. 漁業通信を行う場合

〔11〕 無線局に備え付けておかなければならない時計は、その時刻をどのように照合しておかなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 毎週1回以上中央標準時に照合する。
2. 毎月1回以上協定世界時に照合する。
3. 毎日1回以上中央標準時又は協定世界時に照合する。
4. 運用開始前に中央標準時又は協定世界時に照合する。

〔12〕 次の文は、無線通信規則の緊急信号に関する規定であるが、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「緊急信号は、 優先順位を有する。」

1. 遭難通信を除くほか、他のすべての通信に対して
2. 現に行っている通信に次いで
3. 他のすべての通信に対して
4. 安全通信に次いで